



コールセンターからの小さなよみもの

今日のポイント!



1. 安定した分配を続けるために、分配金を減らすことがあります
2. 「分配金の減額＝お客さまの損」ではありません

1. 安定した分配を続けるために、分配金を減らすことがあります

毎月分配型のような定期的に分配を行なうことをめざしているファンドは、一般的にファンドが受け取る収益を安定した水準で出し続けられるように設計され、運用されています。したがってファンドが受け取る収益が多いときも少ないときも、分配金の額が安定するように考えられています。

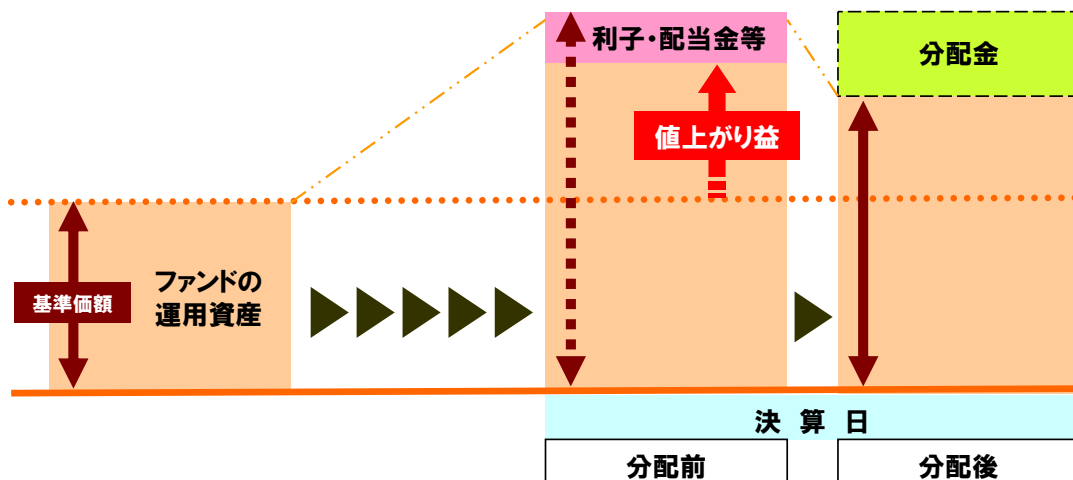
お客さまが、定期的に受け取る分配金を楽しみにされたり、分配金をファンドの運用力を見るバロメーターのひとつにされたりすることを、私たちもよく理解しています。しかし分配金の額だけでは、そのときにファンドがどのくらいの収益を受け取っていたかは、実はわからないのです。

2. 「分配金の減額＝お客さまの損」ではありません

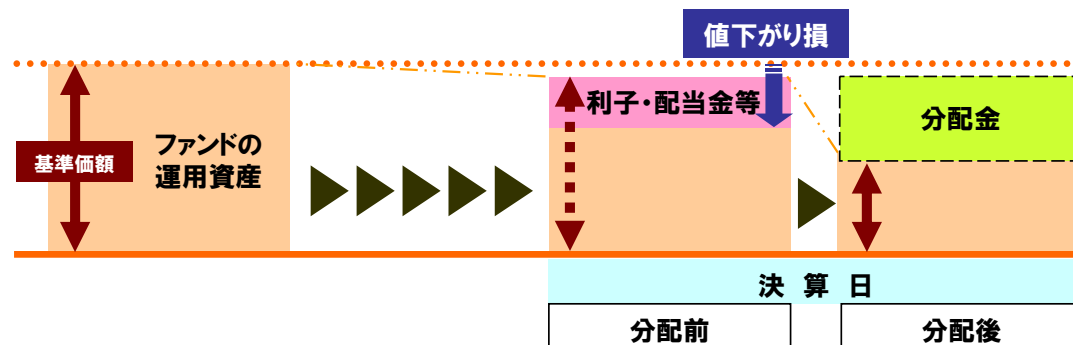
ファンドが受け取る収益には、保有する債券や株式などからの利子や配当金という定期的な受け取りが期待できるものがあります。これらをファンドが受け取ると、ファンドの運用資産(純資産総額)に加えられます。

そして、ファンドが保有する債券や株式などの値上がりや、海外の債券や株式などを保有する場合には為替差益によって「値上がり益」が生じ、ファンドの運用資産が増加します。ただし、現状のような相場環境ではこれらの「値上がり益」はあまり期待できません。それどころか、債券や株式などの値下がりや円高で、ファンドの運用資産が「値下がり損」により目減りする、つまりは基準価額が値下がりしているファンドも多くあります。

債券・株式等の「値上がり益」があった場合



債券・株式等の「値下がり損」があった場合



たとえば、利子・配当金等が20円、値上がり益が30円の収益があったファンドが、そのときに50円分配金を支払ったとします。

その後そのファンドが市況環境の悪化を受けて、利子・配当金等が20円、値上がり益は得られずに、逆に値下がり損が40円あったとします。

そこで50円の分配金を変わらずに支払ったらどうなるでしょうか。

分配金50円を支払うのに、収益は利子・配当金等の20円しかありませんので、残りの30円はファンドの運用資産から切り崩すことでまかさないます。

つまりファンドの運用資産は値下がり損により

40円目減りするのに加えて、分配金を支払うために、さらに30円目減りすることになるのです。

収益が得られないなか同じ分配金を続けるとなると、

ファンドの運用資産をどんどん減らしていくことになるのです。





コールセンターからの小さなよみもの

そのため基準価額の値下がりが続くときには“分配金50円を続ける”のではなく、“分配金を減らす”ことで、“ファンドの運用資産を残す”ことも検討するときがあります。もちろん、ファンドの運用資産として残された分はきちんとファンドの中に残って運用されていますから、そのまま運用されて、来たる上昇時には収益を生む源泉となります。

運用環境によっては、ファンドが受け取る収益の額も変わっていくことでしょう。そのなかで安定分配をめざすファンドにおいては、ファンドが受け取る収益と基準価額の値動きとの両方を見て、必要以上にお客さまの運用資産を減らすことのないよう、最適な分配金の水準を見極めながら運用を続けたいと考えています。

お客さまの利益とは、分配金と基準価額の値上がりの合計です。厳しい相場環境が続いていますが、今後も安定した分配をめざしてまいりますので、そのなかで基準価額の回復をじっくりと期待していただきたいと考えています。

ご不明な点、気になる点などがありましたら、
ぜひ日興AMコールセンターまでお問合せください。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

